

事業終了にあたって

2013年6月30日

金沢大学創基150年記念事業準備委員会委員長

柴田正良

2009年のシンボルマークの公募から始まった本記念事業は、本年、2013年秋頃に予定されている〈楷（かい）の木〉の植樹を残して、すべて無事に終了いたしました。

本事業に関わられたすべてのみなさまに感謝申し上げるとともに、当初の目標をおおむね達成し、無事に終了したことをご報告する次第です。なお、角間、宝町・鶴間の各キャンパスに学問の木、楷の木を植樹するという最後の事業にも、これまで通り、みなさまの事業として参加されることを心からお願いいたします。

本事業は、金沢大学の濫觴（らんしょう）たる加賀藩彦三種痘所の開設から数えて150年目を祝う事業であり、その使命は、歴史的観点を踏まえて本学のアイデンティティを再確認し、150年先を見通した本学のヴィジョンを大学のあらゆる活動から模索することでした。その使命を果たすべく、〈先魁 共存 創造〉という3つのコンセプトを立て、その下で本学関係者に「全員参加型」で本事業に関わっていただくことを目標といたしました。その目標がどこまで達成できたかは、いまや、大方の叱正を待つばかりです。

姿形や外観が人を裏切ることがあるのはよく知られた事実です。人生の悲喜劇の多くもまた、それに由来します。しかし、姿の美しさ、形の力強さに惹かれたからこそ正しい選択をした、という方が本来ではありますまいか。鮮やかな姿形が優れた機能を暗示して隠された本質（遺伝子）を選ばせる、というのが進化の企みだからです。さて、「大きなもの」の誇示ではなく、「小さなもの」の力の結集であった本事業の姿は、いかなるものだったのでしょうか。許されるならば、薬師寺東塔の水煙に遊ぶ飛天たちのように、自由で、軽やかな姿であった、と思いたい……